

「共に尊重し合いながら、協働して活動する学級活動」

青森県弘前市立自得小学校 教諭 渡邊 紗妃

1 主題について

児童が自ら発見した課題について全員で解決するために、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら《共に尊重し合いながら》、合意形成のもと分担・協力してやり遂げたり、自ら意思決定したことを実践するにあたり、励まし合いながら努力したりする《協働して活動する》ことによって、互いのよさや可能性を一層発揮し、身に付けた力を生かして、よりよい人間関係を形成するとともに自己実現を図ろうとする態度の育成につながると考え、実践を行った。

2 実践の概要

(1) 学級の実態

2年1組の児童、男子3名（自閉情緒学級から交流1名含む）、女子12名の計15名。入学時から転出入した児童はなく、担任も持ち上がりである。全体的に明るく元気が良く、同じ保育園出身の子が多いため、お互いのことをよく理解している。友達同士でのトラブルも見られるが、児童間で解決している様子が見られる。1年生の時は、教師の説明や友達の意見を最後まで聞くことができなかつたり、発表に対して緊張し黙ってしまつたりする児童がいたが、授業においてグループで活動する場を増やしたことで、自分の主張を伝えるとともに、相手の意思を尊重したり、みんなで協力したりすることができるようになった。

学級会については、1年生の時は教師主導で行うことが多かったが、2年生から児童主体の活動を意識して取り組んできた。児童は学級会の良さを実感し、意欲的に参加している。しかし、小集団のため、意見を広げることが難しい場合があり、一つの意見に偏ってしまつたり、新しい意見を生み出すことに時間がかかつたりすることがある。

(2) 議題の設定

① 1年1組「たのしいかきかきどうをきめよう」

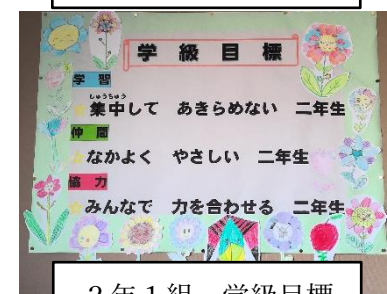
放送委員会で行っているクイズへ積極的に参加する様子を見て、自分たちもクイズやなぞなぞを出してみるとおもしろいのではないかという思いを引き出すことで、当番活動以外の活動を取り入れた児童の自発的、自治的な活動につなげたいと考えた。係活動は「クラスがもっと楽しくなるもの」「クラスのみんなも自分も楽しめるもの」「自分たちで工夫して活動できるもの」であることを伝え、当番活動とは違う活動であることを確認した。

② 2年1組「1年生となかよくなろう会をしよう」

生活科で学校探検を行い、1年生に校内を案内する活動をして、もっと交流したいという感想をもった。そこで、一緒に遊ぶ計画を考えることを学級会の議題として設定し、集会活動を通した児童の自発的、自治的な活動につなげたいと考えた。また、相手意識をもちながら友達同士で考えを出し合い、自分たちで計画して実行することの楽しさを実感させたいと考えた。



1年1組 学級目標



2年1組 学級目標

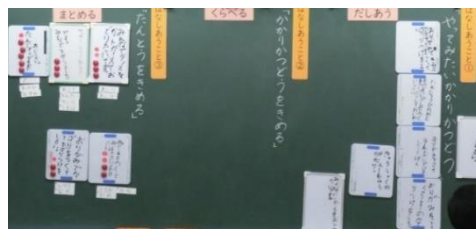
(3) 実践内容（1年、2年と共通した事項…☆）

①必要感のある議題と明確な提案理由

- ・ロイロノートのアンケート機能を活用し、学級に対して貢献したいという思いを引き出すことで学級の所属感に気付かせる。
- ・1年生と交流してきたことを振り返り、一緒に遊んでもっと仲良くなりたいという思いをもたせる。
- ・「学級会ノート」を活用させることで、話合いの見通しをもたせたり、自分の考えを明確にさせたりする。（☆）

②話合いの流れに沿った合意形成に向かう態度の育成

- ・話合いの流れを示した「司会のことば」を活用させることで、学級会の司会の役割を学ばせる。（☆）
- ・「出し合う」「くらべる」「まとめる」のカードを板書に示すことで、話合いの進捗を確認できるようにする。（☆）
- ・賛成意見（赤）と反対意見（青）が出された際に、マグネットで色分けして表示することで話合いの状況を可視化させる。
- ・ネームカードを貼ったり、挙手で意思確認をする場面を設定したりすることで、自分の意見を明確にさせる。



③合意形成のプロセスを振り返り、次の話合いへつなげる工夫

- ・「学級会ノート」に話し合った内容や振り返りを書かせることで、次の活動に向けた意欲を高め、実践への見通しをもたせる。（☆）
- ・合体する、半分ずつ入れる、付け足しをする、持ち越しをする、新しいものを生み出す、納得するなどの合意形成ができたとき、称賛して価値付けすることで、話し合う良さを実感させる。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・1年生からの話合い活動の積み重ねが見られ、合意形成が自然とできるようになった。
- ・司会グループ以外の児童も話合いの流れを理解していることで、見通しをもって、安心して話合いに参加することができた。
- ・意見が多く出て収集がつかなくなった時、話合いのめあてに立ち返ることで焦点化され、軌道修正をすることができた。
- ・学級目標を提案理由に入れることで、児童の主体性を高めることができた。

(2) 課題

- ・採用されなかった意見をどのように改良したらいいのかについて、追求できるようになると今後の話合いがより活発になっていくと思われる。
- ・一つの意見に対して、賛成・反対の意見を集約するなどの技術を司会団がもう少し使えるようになると、めあての達成に向けた話合いがさらに深まるとと思われる。